

白血病ウイルス 研究、市民参画を

12日南区で講演

難治性の血液がん「成人T細胞白血病（ATL）」などの原因となる「ヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）」を学ぶ講演会が12日、南区の京都テルサで開かれる。日本HTLV-1学会の主催で、「世界HTLVデー」の10日夕からは、啓発のため京都タワーを赤色にライトアップする。

HTLV-1は、母乳による母子感染や性交渉などが主な感染経路で、国内の推計感染者数は約82万人。潜伏期間は数十年と長く、感染者の5%程度がATLを発症する。

講演会では、聖マリアンナ医科大学の新井文子・主任教授らが、患者らの声を医療研究に生かす「PPI（市

民参画）」の必要性を説明。同学会の渡辺俊樹理事長らも登壇し、来場者と意見交換する機会も設ける。

参加無料。オンライン参加は同学会ホームページで事前申し込みが必要。問い合わせは同学会事務局（044・977・8111）。